

マイクロソフト、アバイア、ポリコム、アルカテル・ルーセントと提携 “最強チーム”でUCに挑むHPの勝算

日本HPがユニファイドコミュニケーション&コラボレーション分野に本格攻勢をかけ始めた。UC&Cの主要ベンダーが援軍となっており、大手企業向けマーケットでは相当な勢力に育つかもれない。 文 太田智晴(本誌)

日本ヒューレット・パッカード(HP)がユニファイドコミュニケーション&コラボレーション(UC&C)に本腰で取り組み始めている。1月18日にSaaS型Web会議システム「HP Virtual Rooms」の国内販売を発表、2月7日にはUC&Cソリューションのポートフォリオ強化をアナウンスした。

同社ネットワークソリューション部部長の小谷宏氏は、この背景には企業を取り巻く環境の変化やテクノロジーの進歩があると説明する。リーマン・ショック以降、企業では一段のコスト削減とビジネス環境の変化への一層の迅速な対応が求められるようになった。一方、モバイル技術やビデオ圧縮技術など、UC&C関連の技

術もここ数年で大きく進化し、「社会的なニーズと技術の両面で、まさに今、UC&Cが広がるタイミングが来た。以前と比べると、企業はUC&Cにかなり前向きになっている」(小谷氏)という。UC&Cの導入機運の本格的な立ち上がりを捉え、日本HPも精力的に動き始めたわけだ。

「グローバル」が強み

HPのUC&Cソリューションを見ううえで大事なポイントの1つは、その強力なパートナー陣である。HP自身もテレプレゼンスの「HP Halo」、前出のVirtual Roomsの2つのビジュアルコミュニケーション製品をラインナップしているが、さらにUC&Cの代表



テクノロジーコンサルティング統括本部テクノロジーソリューション本部ネットワークソリューション部の小谷宏部長(左)、同本部教育サービス企画推進部の新井啓之部長

的ベンダーであるマイクロソフト、アバイア、ポリコム、アルカテル・ルーセントの4社とグローバルな提携関係にある。「特定製品の導入を前提としたプロダクトアウトではなく、お客様の“あるべき姿”に即したソリューションを提供できるのがHPのUC&C」と小谷氏が説明する通り、ユーザー企業のニーズに合わせて、自社+パートナー4社の製品を最適な形で組み合わせられるのだ。「この4社のパートナーは本当に最強の組み合わせ。」

図表1 HPのUC&Cソリューションの概要

PMO : Project Management Office

	ユーザー企業における差し迫った事情および課題	対応サービス
Voice Transformation	<ul style="list-style-type: none"> ・M&A、オフィス移転、海外とのシステム統合 ・オフィス電話機/PBX環境の見直し、保守切れ対応 ・ビデオ会議環境の見直し、保守切れ対応 ・既存コミュニケーション環境のネットワーク調査 ・ネットワーク性能改善、UC機能追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・UCレディネスアセスメント ・ネットワークアセスメント ・アバイアUC環境構築 ・マイクロソフトLync UC環境構築 ・グローバルPMO ・UC運用支援
Virtual Workplace	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークスタイル変革、パンデミック対応 ・モバイル勤務対応、在宅勤務対応 ・オフショア活用 ・オフィスワーカーのコスト削減、生産性向上、渡航禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・Business Value Service ・ネットワークアセスメント ・UCレディネスアセスメント ・アバイアUC環境構築 ・ポリコム ビデオ環境構築 ・マイクロソフトLync UC環境構築 ・グローバルPMO ・UC運用支援
Communications Enabled Solutions	<ul style="list-style-type: none"> ・コンタクトセンターインフラPBX/CTI/IVRの保守切れ ・次世代コンタクトセンター環境への移行 ・病院含むヘルスケア業界のUC化 	<ul style="list-style-type: none"> ・アバイアコンタクトセンター環境構築 ・コンタクトセンター運用支援 ・デジタルホスピタル構築(予定)

出典：日本HP資料をベースに編集部作成